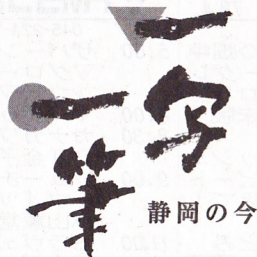


# 七五三行く手には



「七五三」は、男の子は

3歳と5歳、女の子は3歳と7歳の年の11月15日に、成長を祝って神社などに詣でる年中行事である。男の子は袴着、女の子は着物姿が多く、「千歳飴」を持つた晴れ姿を、両親や祖父母

らが囲む和やかな光景は日本の秋の風物詩である。だが、この子供たちの行く手は決して平坦な道ではない。

「七五三」は、男の子は3歳と5歳、女の子は3歳と7歳の年の11月15日に、成長を祝って神社などに詣でる年中行事である。男の子は袴着、女の子は着物姿が多く、「千歳飴」を持つた晴れ姿を、両親や祖父母

の割合を示す「解消率」は小学校73・3%、中学校72・3%で、いずれも前年度を下回った。

県教委は認知件数が増加した要因の一つは「小さないじめも積極的に拾い上げた結果」としている。文科省によれば、全国の公立小中学校などで起きた同年度のいじめは前年度から約13万件増えて、過去最多の約54万件に達したという。どうやら子供たちには「地域差」の逃げ道もないようだ。

高校に進学すれば「大学入試」という人生の大きな関門が待ち受けている。その制度をめぐって、受験生を不安に陥れる事態も起きている。2020年度から始まる大学入学共通テストで予定していた英語の民間試験の活用が、本番5カ月前で見送られた。

「七五三」前後の土、日曜日、各地の神社は晴れ着姿の家族連れでにぎわう。静岡市葵区の静岡浅間神社では着物姿の女の子を、外国人観光客が取り巻いて写真を撮る光景もあった。

神社の祈禱申込書を見ると、「〇男」「〇子」という名前はほとんど見当たらない。今年生まれた赤ちゃんの名前で最も多かったのは男の子「蓮(れん)」、女の子は「陽葵(ひまり)」という調査結果もある。

この子たちが社会で活躍する頃には、きっと外国人に呼びやすい名前なのかもしれない。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



晴れ着姿の少女を囲む外国人観光客＝静岡市葵区、全日写連・白鳥昭一さん撮影